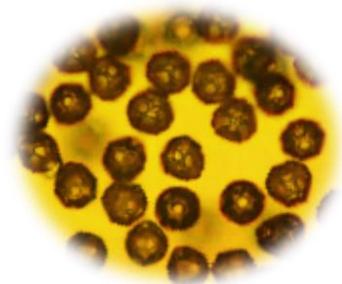


掲 示 板

2020年度 第1号 通巻99号 2020年8月8日発行



カンサイタンポポ花粉

フィールドレポーター新担当よりごあいさつ

今年度よりフィールドレポーター担当となりました学芸員の金尾です。以前、カタツムリ調査に関わらせてもらい、それ以来の登場となります。普段から研究でも参加型調査や地域の皆さんといろいろな生き物を調べる活動をしていますので、これから皆さんと一緒に新しい発見ができることを楽しみにしています。

今年は世界中を襲った新型コロナウイルス感染症のため、博物館も2月末から5月末まで臨時休館、そしてその間の様々な活動も中止や自粛と大変なスタートとなってしまいました。そんな中ですが、皆さんにはタンポポ調査に出かけていただき、そのおかげで県内各地のデータを集めることができたのではないかと考えています。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

私自身はそこら辺を歩いているだけでも、いろんな生き物が目に入ったり、鳴き声が聞こえてきて、気になり始めるとなかなか前に進むことができない性格です。でも、そんな中に「あれ？ここにこんな生き物っていたかな？」という疑問や、「この生き物の鳴き声が聞こえてきたか。ああ、もう夏だな」といろいろな季節を感じることもあります。

年2回の調査だけではなく、フィールドレポーターの皆さんが日常的に「〇〇を見つけた」「ここに△△があったよ」「この生き物は何？」という自然、文化に関わる情報や発見をいろいろと共有・交流ができるようになればと思っています。皆さんが見つけた情報も随時募集しますので、ぜひ情報をお寄せください。そこに、滋賀の新しい価値などが隠されているのではないかと考えています。

今後ともよろしく願いいたします！

フィールドレポーター担当学芸員 金尾滋史

☒ ☒ ... 📖 📖 📖 も く じ 📖 📖 📖 ... ☒ ☒

	巻頭文	金尾滋史	P1	4	グミの木に、ドキ土器	津田國史	P6
1	タンポポ調査結果 中間報告	前田雅子	P2	5	このセミは 今年者・ 去年者	近江心気郎	P7
2	変わった葉のタンポ ポを見つけました	津田久美子	P4	6	今年の初観察	FR	P8
3	戻ってきた？珍客 4	草津 家猫	P5		活動報告・活動予定	編集局	P9

1. タンポポ調査結果 中間報告

FRS タンポポ調査担当 前田雅子

3月から5月末にかけて行なわれたタンポポ調査は、新型コロナの影響で私達の行動が規制された時期に重なります。調査に出るのを躊躇された方も多かったと思います。それでも、タンポポの花の時期が終わらないうちに…と、各々のできる範囲で、調査してくださいました。皆様、本当にありがとうございました。

これまでに、34人のレポーターから441件の調査票を寄せていただきました。たくさん集まったことに嬉しい悲鳴をあげています。博物館が5月末まで休館していたために、同定（種類の確認）作業は現在、4分の3の329件を終えたところです。まだ、全体の集計結果を示すことはできませんが、中間報告として、調査地点とおおよその在来種と外来種の割合を紹介します。

441件の中には、頭花サンプルがないもの、調査地が不明なもの、タンポポ以外の種だったものなどの無効データが6件ありました。有効データは435件でした。

全調査地点を図1に示します（京都市二条駅の調査地点はプロットできていません）。滋賀県内の各地を網羅したといえるほど、広く調べられました。車を使ってタンポポ・トリップに出かけ、出先で気に留めて観察して下さった方もいました。皆様のおかげで、調査目的の一つである「湖東地域の分布」が、明らかになりそうな気配です。

調査地点の生育環境を図2に示します。最も多かったのは「農地」でした。タンポポは農地でよく見つかるようです。次に多かったのが公園・植込み・家の庭などの「都市的緑地」と、「道路脇・分離帯」で、身近な生活場

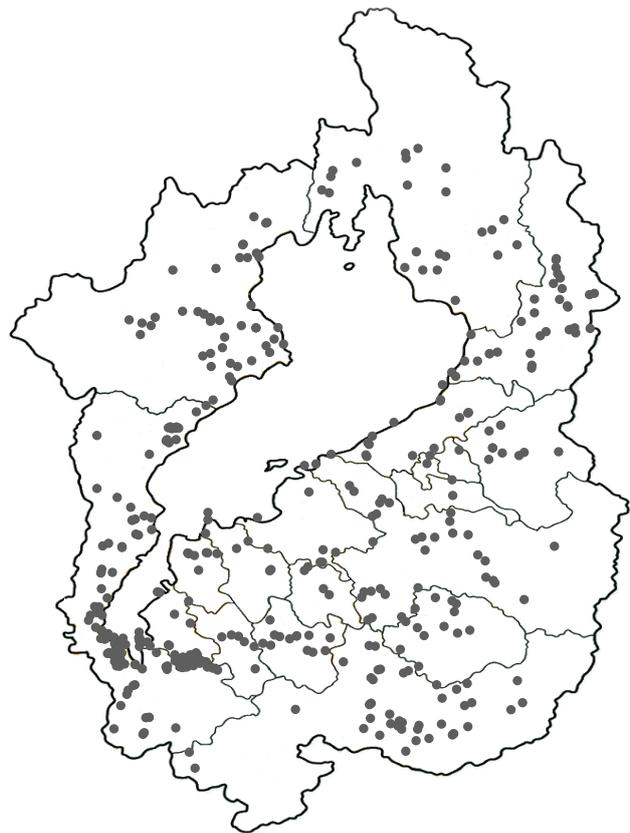


図1 タンポポの調査地点

所にもタンポポがたくさん咲いていたようです。「堤防・川原」「駐車場・造成地」など、環境区分として挙がっている場所を意図的に調べた方もありました。

どの環境にどの種が咲いていたかについては、これから検討を行います。一般には、昔ながらの場所に在来種が多くあり、土地改変をした場所に外来種が入り込んでいると言われますが、

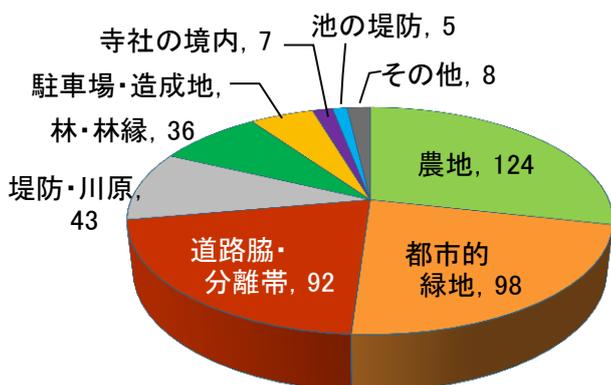


図2 調査地点の環境

どうでしょうか？ 同定をしながらの感触では、農地に在来種が少なく、一方で、都市的緑地で在来種が多く報告されているように思います。また、河川堤防で予想外に在来種が多いようです。

今回の調査方法は、従来のように1地点で1つの頭花を採集するのではなく、10m四方くらいを1地点として、そこに複数の種類が見られた場合は、それらも合わせて採集してもらいました。さらに、1地点に1種類だけがあると思われた場合でも、別株の頭花をもう1つ採集してもらうようお願いしました。湖東地域ではカンサイタンポポとセイタカタンポポの区別が難しいことが予想されましたし、複数採取することでその場所の生育種がより鮮明になると考えたからです。

その結果、2頭花のサンプルが添付された調査票が全体の半数、また1種1頭花のみの調査票も半数近くありました。1地点で3種あるいは4種が記録された調査票もありました。種別の検討が悩ましいところですが、ここでは、同定が終わった510サンプルの種別の個数と割合を表1に示します。

表1 種別のサンプル数と在来種・外来種の割合

現段階では黄花在来種が247個体(48%)、雑種を含む黄花外来種が217個体(43%)、白花種が46個体(9%)です。黄花だけを見ると、在来種が53%、雑種を含む外来種が47%になります。在来種が半数以上あるというのは、外来種ばかりを見るような気がする私達の実感とは異なります。全サンプル同定後の最終データが気になります。

本報告をお楽しみに！

カテゴリーと種名	サンプル数	%
黄花在来種 小計	247	48%
カンサイタンポポ	116	23%
セイタカタンポポ	121	24%
トウカイタンポポ	9	2%
ケンサキタンポポ	1	0%
雑種を含む黄花外来種 小計	217	43%
セイヨウタンポポ	24	5%
アカミタンポポ	5	1%
種不明の外来種(雑種を含む)	188	37%
白花 小計	46	9%
シロバナタンポポ	37	7%
キビシロタンポポ	9	2%

葉っぱは化ける

タンポポの葉は、独特な形をしていますね。縁の切れ込み(ギザギザ)が大きくてはっきりしたものが多くありますが、切れ込みが弱くて丸みのつよいものもあります。季節や環境によって“葉っぱは化ける”ので、タンポポの葉の形は、種類の見分けにほとんど役立ちません。

フィールドレポーターの津田さんから、ちょっと変わった葉を送っていただきました。その様子はP4に掲載されています。

フタナ、別名タンポポモドキ

これは、今回の調査で私が間違って採取したフタナです。上から見るとタンポポそっくり。横から見ても、なんだか変と思うくらい。でも、茎には小さい葉のようなものが螺旋状についていますし、総苞片の中央には短い毛が並んでいます。何より、茎が途中で枝分かれしています。



2. 変わった葉のタンポポを見つけました

FR 津田久美子

私は現在育児休業中で、子育ての合間にフィールドレポーターとしての活動など、調査・研究を行っています。ですので、目的のものをじっくり探す時間的な余裕がありません。

この春は、新型コロナウイルス感染症の影響で、子育て支援施設はどこも閉鎖で行き場がなく、毎日ベビーカーを押して1時間以上散歩する日々が続きました。「せめて、この散歩を楽しもう！ついでにフィールドレポーター調査もやってみよう！」と思い、息子と一緒にタンポポを探しながら歩きました。そのような中で見つけたのが、写真のタンポポです。普通のセイヨウタンポポかと思いましたが、葉の印象が違うので、念のためサンプリングしました。写真の1株だけで周囲にタネはありませんでした。

普段は環境に関わる仕事や研究をしています。植物の分類については専門ではなく、タンポポに関しては、「萼片が反り返るのが外来種（セイヨウタンポポ）だが、近年は反り返りが半端で在来種との交雑が進んでいると推測されるものがあり、形態的に区別するのは難しい」というぐらいの知識で（これも誤っているかもしれません）、葉の形態についてはよく理解していませんでした。

写真のタンポポを見つけた時は、「セイヨウタンポポにしては、何だが葉がおかしい。変種かな？もしかして大発見！？でも、街中の道路沿いに生えているし、やっぱり普通のセイヨウタンポポかなあ…」という気持ちでした。

普段見慣れているはずのものに対して、フィールドレポーターの視点を持ち、ほんの少し注視する度合いを強めることで、違和感や面白さを発見する。これこそ、この調査の醍醐味だと感じました。

そういえば、この視点は、小さな子どもが持っていることが多いですね。子どもと一緒に調査、おすすめです。



3. 戻ってきた？珍客4

草津 家猫

7年ぶりにブドウの実が9粒ついた。実をつけるだけの力が数年かけてようやく整ったのだろうか？1月には東南東に高層住宅が建ち、ガラスの反射で夕陽が東の部屋にも差し込むようになり日照時間が増えたのも一因なのか？少ないながらも大きく育てと収穫までの日々を愉しむことにした。



(6/9) コロコロと糞が鉢下に散らばっていた、これはもしや・・・小指程のコスズメガの幼虫を4匹もみ～つけた！！！！しかし、今年はブドウの実をふとらせるには養分をつくる葉が必要なためコスズメガを養う余裕はない、心を鬼にして敷地外に撤去すると決めた。後の成長は彼らの運次第、鳥の餌になるかも・・・と多少は後ろめたさも感じつつ、これでブドウの実は守られると安堵する。



他にもサクランボ・クワ・ピワ・イチジク等があり、花より団子なベランダなのだがコスズメガはブドウが好みなようである。昨年育てたコスズメガが戻ってきて産み付けたわけではないと思うが、虫にも鮭のように帰省本能はあるのだろうか？遺伝子検査で親子鑑定もできないし、近くに果樹園も無いのになんでまたわざわざここに？駅前で夜も明るいから虫が集まるのだろうか？と色々思い浮かぶものの、おそらく別親がたまたま産み付けたのだろうと思うことにする。

(6/15) ところが、今度はさらに大きな糞が落ちていて、側溝の水の中でもふやけていない。まだいたか・・・どこだろう？これは大きい！中指程に育った幼虫を1匹見つける。1匹だけなら食べる葉もなんとか足りるか？実にも大きな影響はなさそうだが・・・しかし実の付いた枝の近くの葉先を食い散らかしている、他の所よりおいしいのだろうか？実から離れた所に引っ越してもらおうと新芽を近づけて尻をつついて移動せずに頭をふるだけ。しつこかったのか



“やめてくれ”と言わんばかりに緑色の体液を吐き出す、その液を指でこすると糸をひき少し粘りけがある、だから糞はふやけていなかったのかもと推測する。はちきれんばかりのプリプリした身体が少し縮んだ？亀みたいに首？をすくめて戻するのに5分程かかる。今度は葉の裏にすることが多いから水がかかったらどうするのかなと少しかけてみる、頭をふるも身体に水滴が残る、しばらくして嫌だったのか頭を近づけて水を吸った。しがみついている軸ごと葉っぱを切り取り、鳥に狙われても手すりからくちばしが届きにくい所に移すがなぜか日の当たる所に戻る。日陰の葉より美味しいのかな？そのまま外で飼うことにした。

(6/18) 糞が落ちていない、蛹になる為の葉っぱのゆりかごも無い、カラスにでも食べられたのだろうか？小ぶりのピワの実も丸ごと2個無くなっていました。

4. グミの木に、ドキ土器

FRS 津田 國史

わが家の庭に、盛大に繁ったグミの樹がある。以前この樹のあれこれを掲示板に投稿したことがある。今日はこのグミの樹に土器が生ったことを報告します。

このグミは 10 年あまりの年月、わが家の玄関先で、存分に日を浴び好き勝手に成長してしまった。かつて実が生らないので伐ってしまおうと思ったこともある。いまは枝が屋根に被さるまでになり、田植えが始まる頃になると実が紅く色付きだし、待ちかねてついつい手が出る。まだ充実してないが甘酸っぱい実を口に含んで種をプッと吹き飛ばすのが嬉しく、実の成長を待ち望む日々が楽しい。



地上 1100 mm×口径 2 mm×胴径 112 mm×口縁 12 mm
2020 年 5 月 28 日 : 13:54

今日も葉陰に生っている実を確認すべく枝を探っていたら、何やら白っぽい物があるのに気付いた。

これ、古代土器か、もしかしたら弥生土器かも。見事な口付土器がわが家のグミの樹に生ってる。

雄大な胴型にキュウっと小さくすぼまった口が、口縁ではおおらかに開いて見事なバランスを見せる白い壺。胴の景色もなかなかのもの。

胴の張り具合と言い、それに見合う口縁の開きと均整が保たれて、素晴らしい造形美に目をみはった。これだけの美意

識をもって造形出来るなら信楽辺りで創作してほしいな。

これは誰が造ったのか。銘を探ってみたが無銘の大器だ。中に何が入るのか。これを造成した御仁にお目にかかって制作の苦勞話をじっくり聞きたいもの。他所から運んだものでなく、このグミの樹の此処で創った壺であることは確信できる。なんとも素晴らしい。

件の土器に驚いていたが、挿し木用に数本の新枝をバケツにさしこんであつたのを持ち上げたら、



2020 年 7 月 17 日
どちらも成虫になりいまはもぬけの殻。

なんと先に見つけた土器より少し大きめの土器があるではないか。まさにドキドキ土器。この土器の主はグミの樹を好んで次世代を育てる場にいるようだ。柿の木に壺をくっつける虫は刺されると痛いので、ヒリヒリムシと名付けていたが、この成虫の名は何というのか。それにしてもこれだけの材料を何処から、どうして運んでくるのか、制作過程を知りたい。最初に見つけた土器の主は中に卵を産み付けたのか口がふさがった。中で孵化・幼生・蛹と変化して成虫になるのは何時かな。

5. このセミは今年者、去年者

近江心気郎

春本番には少し早い3月21日にセミの抜け殻を見つけました。場所は大津市膳所城祉公園の大きなラクウショウの木。3m50cmあたりの高さで手は届かない。

撮影は成功で何とか現場記録の証拠写真が撮れた。

今年は1月から20℃に近い日があるかと思えば冷え込みもある乱れた気候が続いた。この日は気温もやや高く、フィールドレポーターのタンポポ調査に絶好と考え訪れたのに、タンポポの咲く姿を見つけられなかった。やれやれと見上げた木の幹に、セミの抜け殻とおもえるものが目に入った。隠れる処のない吹きさらし。少し早すぎるイラチなセミ（江州弁：せっかちなセミの意）かいな、と考えつつ、ひょっとして、去年から残った根性ゼミなら面白いと慎重に回収して持ち帰った。

すぐ博物館に持ち込んで相談したい処でしたが、新型コロナウイルスのおかげで訪問も出来ず、2ヶ月間手元に置いてその間あれこれ考えた。疑問は単純。今年のも去年のものか？

セミの抜け殻が何時までも木に残ることはほとんどないそうです。他の生き物に食べられることは無いらしいし、風雨にさらされ飛び散り壊れて無くなるのが普通であるそう。

然らば、今年一番に出てきたイラチのセミのものとなる訳だが、そうすると疑問はもっと大きい。セミは数年かけ地下で生活し、苦

労をして地面から這いだし、一番危険な羽化の状況を乗り越え世

に出てくる。ひとえに結婚相手を探し子孫を残すという宿命を背負っての行動だ。世に出たのはよいが、半月間ほど“恋し恋し”と泣き続けたものの肝心の相手は未だこの世に在らず、無念の思い抱きつつ、はかなくあの世行き、なんてことであればこれは無情と言うほかはない。できればそう在ってほしくない。

6月の休館開けを待ちかねて博物館に赴き、八尋学芸員さんを訪ねました。抜け殻を持ち込み説明したところさすがに即答は貰えませんでした。正解を後日頂きました。

結果、疑問の答えはこのようでした。「ヒグラシのようです。その年に羽化した抜け殻とは考えにくく、前年に羽化した抜け殻が残っていた可能性が高いです。」疑問は全て解けた！

君の名はヒグラシ。“蜩”と書き 茅蜩、日暮、秋蟬等の字が当てられる。盛夏を少し過ぎた頃に世に出て人々に秋の訪れを感じさせるセミであり、歳時記では秋の季語とある。

夏の終り、立派に羽化して子孫を残した成虫の姿を木に止まり見届け、秋から冬の風雪を耐え忍び、踏ん張りきった姿は正に賞賛に値する。ど根性セミよ。よう頑張った。君はエライ。



6. 今年の初観察

 皆さんから届いた初観察記録やフィールド情報を紹介します 

初ツバメ

(柁島昭紘さんより)

●2月22日14時頃、琵琶湖畔の上空をゆっくりと旋回するツバメを2羽発見しました。今年の初つばめです。大津市柳が崎湖畔公園、気温は15℃位で晴れ、風は微風で日差しは暖かい。昨年まで草津駅上空では、3月上旬に初ツバメを観察していましたが、少し早いなと思いました。



初セミ

(Y・Mさんより)

●2020年7月7日 大津市北比良
夕暮れにヒグラシの初鳴き声を聞きました。
雨が続き弱々しい声でした。



(山本 篤さんより)

●2020年7月16日 大津市別保（住宅地、庭や街路樹が点在）
セミ（種類不明）が少し鳴いたのが聞こえましたが、雨が降っていたためかまもなく聞こえなくなりました。



(山本 篤さんより)

●2020年7月18日 大津市別保（住宅地、庭や街路樹が点在）
朝からクマゼミと思われる鳴き声が聞こえました。

初ホタル

(笹井美智子さんより)

●2020年5月19日 守山市吉身6丁目
20時半頃今年初の蛍を見ました。
住宅街のホタルです。



写真：4点とも金尾学芸員提供

このような観察記録を随時募集しております。
ぜひ皆さんのフィールド情報をお知らせください！

フィールドレポーターの皆さんへご報告

新型コロナウイルスの影響により、博物館利用者の入館自粛が始まり最終的には臨時休館となり、個人、団体の館内活動もストップの事態になりました。

「タンポポ調査」の案内・内容のまとめが出来上がり発送直前の出来事でした。

掲示板98号は最終調整の段階でしたので担当学芸員さんとのテレワークにより構成が出来上がった次第です。しかしながら、スタッフによって行なう最終段階の発信や発行業務は出来ず、代わりにフィールドレポーター担当学芸員さんと博物館広報企画学芸員の皆さんにお願いせざるを得ない状況になってしまいました。3月の年度末という大変な時期にも関わらず、実務に当たって頂く事になってしまいました。

おかげさまで、今年度第1回の「タンポポ調査」も期限をすらすらレポーターの元に届ける事が出来ましたので、現在、寄せられた沢山の調査票の、集計に精力を傾けている段階です。

お世話頂いた博物館関係者の皆様には心からお礼を申し上げます。

令和元年度 3月の活動報告

月	日	内容	閉館中の活動（学芸員ほか）
3月	7日（土）	定例会中止	○ 2020年度第1回フィールドレポーター「タンポポ調査」発送 ○ 掲示板「第98号」刊行
	21日（土）	定例会中止	

令和2年度 4月～7月の活動報告

月	日	内容	参加者	主な議題・活動
4、5月	博物館臨時休館により全活動中止			
6月	6日（土）	定例会		都合により中止
	20日（土）	定例会 実習室2	9名	①フィールドレポーターだより「夏のセミの調査」（第53号）内容検討 ②食調査の集約進捗報告 ③タンポポ調査概要報告 ④今年度のFR活動の予定について話し合い ⑤掲示板99号の発行計画
7月	4日（土）	定例会 実習室2	9名	①タンポポ調査まとめ進捗報告 ②夏のセミ調査レポーターだより最終調整の報告 ③掲示板100号記念号の内容・自由論議
	18日（土）	定例会 実習室2	9名	①夏のセミ調査の段階報告 ②食調査学芸員との細部調整 ③掲示板99号（8/8刊行予定） ④今年度第2回調査内容の自由論議

令和2年度 8月～9月の活動予定

	日 時	内 容	場 所
8月	1日(土) 13:30～16:30	定例会	実習室 2
	22日(土) 13:30～16:30	定例会	実習室 2
9月	5日(土) 13:30～16:30	定例会	実習室 2
	19日(土) 13:30～16:30	定例会	実習室 2

活動予定の変更についてのお知らせ

例年、活動開始時期の4月にフィールドレポーター交流会のお知らせをして、5月中旬に集まって頂き、楽しいひと時を共有しながら次なるステップに向かうことを常としていましたが、残念ながら今年はないませんでした。そのみならず、秋のびわ博フェス2020も中止となりました。集会や団体での行動が制限されますので8月に実施しておりました琵琶湖バレイでの「アキアカネマーキング調査」は中止です。山裾で行っている秋の調査は出かける方向で検討を進めています。

..... ○ ○ ○ ○ ○

定例会は原則として、第1、第3土曜日の13:30～16:30に琵琶湖博物館の実習室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、琵琶湖博物館フィールドレポーター係 (Email: freporter@biwahaku.jp) までお問い合わせください。

編集後記

今回99号は休館の影響もあって2ヶ月遅れのお届けとなりました。投稿が少なく編集に差し障るのではないかと懸念がありましたが、コロナによる不測の事態のなか、遠出がままならず外出も少なくなった代わりに、身の回りをじっくり見回せる機会が逆に増えたのか、興味深い観察投稿が寄せられました。今号ではそんな話を紹介しています。



滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091
TEL 077-568-4811 FAX 077-568-4850
E-mail freporter@biwahaku.jp

今しばらくは自粛生活により家庭で過ごす時間が長いと思います。レポートを意識しなくても、何気なく周りを見てみると、花や草木、鳥や虫だけでなく、ペットや人々の動きの中にも、ふと何かを感じる機会があるかと思えます。思いは人様々です。感想や感慨のひとつを退屈しのぎにメモってもらったら如何でしょう。そんな思いをそのまま気軽に投稿していただければ大変うれしいです。宜しくお願い致します。待っています。 (中野)

●次号はいよいよ記念すべき掲示板 100号となります！これまでの振り返りも含めて、みなさんからのコメントや情報をお待ちしております！